

# 「戦後歴代最高最強の総理大臣」ランキング

「戦後の混乱期に再登板を含め5代の総理を務め、戦後政治の基礎をつくった」(山口那津男)「戦後日本の道筋を定めた」(江田五月)「戦争で負けた状況で日本の国策を守り抜いた。わずか20年で経済復興の道筋をつけたのは吉田茂の功績が大きく、比較できる総理はいない」(渡部恒三)「軽装備・通商国家という路線を選び実行した。吉田後の総理は皆、継承者に過ぎない」(見元庄三郎)「アメリカを手玉に取って日本を独立させた。講和条約の交渉で、日本の憲法改正や再軍備を強要されてもガンとして応じなかった。保守本流の良識があった」(平野貞夫)「敗戦後、小さくなった日本を堂々と大きく見せ、米国と肩を並べるまでに復興させた。駐英大使だった吉田首相は、歴史、文化、経済、外交力で大國となった英国から政治を学んだのだと思う」(岩國哲人)「良きにつけ悪きにつけ吉田がつくった国の基礎に、今でも日本は引きずられている」(八代英夫)「平和と経済成長を導いた軽武装、経済復興路線は今振り返っても正しい」(後藤祐一)「冷徹な現実主義に基づき戦後日本の復興と経済発展の基礎を築いた」(武見敬三)「吉田茂総理なくして今の日本はない」(柿沢未途)「日本の利益ではなく、常に大局を見て政治を行った」(竹本直一)「冷戦の中で西側資本主義国としての経済復興の礎を築いた」(藤田幸久)「吉田学校という形でその後の日本政治を支える人材を育成した」(古川元久)「戦後の混乱を収めて、日本を次の時代へのステップへ着実に繋げた」(福本潤一) 同意見—小里泰弘、木内孝胤、大前繁雄、戸田邦司、田中慶秋、中塚一宏

## 1位 吉田茂 (20票)



「国鉄、電電等の民営化を断行した。ロンヤス関係を築き日米同盟を強化した。米ソ冷戦構造の解消に道筋をつけた」(山崎拓)「欧米の首脳と対等にやりあえた人。日本の総理は海外首脳に対して一歩引く傾向があったが、中曽根首相は丁々発止で対応できていた」(島村宜伸)「中曽根内閣で総理府総務副長官を務めていた時のこと。中曽根氏に「行政改革の手始めに副官制度を廃止したい」と、自らのポストを廃止するよう命じられたことは思い出深い」(深谷隆司)「各省の大官・幹部に対して指揮命令するという首相のリーダーシップを自ら示した。サッチャー、レーガンという同時代のリーダーに伍して行政改革等を進めた」(太田誠一)「中曽根内閣の構造改革はアベノミクスの10数倍の経済効果と雇用効果をもたらした。戦後わが国の復興、わけても国民生活の暮らし向上に貢献した総理」(山口敏夫)「ウイリアムズバーグサミットの記念撮影の際、中曽根首相はさつと最前列に歩み出て、レーガン大統領の隣に立った。従来の慣行を破るもので同行記者として傍で見ていた私たちは驚いた。日本の国際的地位を高めるひとつの契機になった」(真山勇一)「風見鶏と言われたが、政治はクイックレスポンスであり、迅速に適切な対応を取るのが本筋」(保坂三蔵)「国鉄、電電民営化を通じ、財政再建に道筋をつけた」(奥野総一郎)「日米同盟強化で冷戦終結に決定的な役割を果たす」(長島昭久)「後藤田官房長官とのコンビが、いわゆるドスが利していた」(齊藤斗志二)「引退後も憲法改正運動に主導的な役割を果たしている」(松浪健太)「本日の日米関係を築いた」(中山義浩)「軍事、外交、経済のバランスを間違わなかった」(丸山和也)「派閥が跋扈している中で長期にわたり政治をリードした」(津島雄二) 同意見—久間章生

## 2位 中曽根康弘 (15票)



「最も国民の生活を大切にされた政治家」(羽田孜)「日中国交回復や資源外交を米国の横やりもいとわずに進めた。内政は高速道路や空港など日本列島を改造。法律をつくり、計画を立て、予算をつけて実行」(石井一)「農村の貧困格差是正に取り組んだ。土の匂いがする政治家だった」(二見伸明)「制度設計を含めた実行力」(磯崎陽輔)「全国どこでも高度成長の恩恵を受けられるようにするという明確なビジョンを持ち、官僚を使いこなしたリーダーシップは比類ない」(大西健介)「裏日本に光を当てたそのパワー、執念には舌を巻かざるを得ない」(黒岩宇洋)「強いリーダーシップで国民の要請に応えた。当時は公共事業でも山をくり抜いて道路を通すことが時代に求められていた。それをダイナミックに実行し、つくった議員立法は今の政治にも生きていて」(野中英一)「従来の官僚や二世ではない、庶民の代表だった」(野間健)「上越新幹線や道路、橋、天下りシステムもつくったとされる。その評価はともかく、大変な遺産を残した総理だった」(白眞勲)「選挙の凄さ。どの選挙区の事情も把握していた。社会党2議席の北海道の選挙区では「自民が4人」と言い、見事その通りになった。こんな凄い人がいるのかと驚いた」(松本謙公)「特捜部出身の私から見てもその功績、政治家像は抜きんでている」(若狭勝)「本人の能力も高い上、当時の日本社会の能力も頂点だったから最強」(百藤信彦)「良くも悪くも、議会制民主主義をしゃぶりつくした」(村越祐民) 同意見—久間章生

## 3位 田中角栄 (14票)



「戦後の混乱期に再登板を含め5代の総理を務め、戦後政治の基礎をつくった」(山口那津男)「戦後日本の道筋を定めた」(江田五月)「戦争で負けた状況で日本の国策を守り抜いた。わずか20年で経済復興の道筋をつけたのは吉田茂の功績が大きく、比較できる総理はいない」(渡部恒三)「軽装備・通商国家という路線を選び実行した。吉田後の総理は皆、継承者に過ぎない」(見元庄三郎)「アメリカを手玉に取って日本を独立させた。講和条約の交渉で、日本の憲法改正や再軍備を強要されてもガンとして応じなかった。保守本流の良識があった」(平野貞夫)「敗戦後、小さくなった日本を堂々と大きく見せ、米国と肩を並べるまでに復興させた。駐英大使だった吉田首相は、歴史、文化、経済、外交力で大國となった英国から政治を学んだのだと思う」(岩國哲人)「良きにつけ悪きにつけ吉田がつくった国の基礎に、今でも日本は引きずられている」(八代英夫)「平和と経済成長を導いた軽武装、経済復興路線は今振り返っても正しい」(後藤祐一)「冷徹な現実主義に基づき戦後日本の復興と経済発展の基礎を築いた」(武見敬三)「吉田茂総理なくして今の日本はない」(柿沢未途)「日本の利益ではなく、常に大局を見て政治を行った」(竹本直一)「冷戦の中で西側資本主義国としての経済復興の礎を築いた」(藤田幸久)「吉田学校という形でその後の日本政治を支える人材を育成した」(古川元久)「戦後の混乱を収めて、日本を次の時代へのステップへ着実に繋げた」(福本潤一) 同意見—小里泰弘、木内孝胤、大前繁雄、戸田邦司、田中慶秋、中塚一宏

「戦略的外交ができる」(甘利明)「安倍総理の任期中に、憲法改正の遂行と日露平和条約締結が成就」(衛藤征士郎)「様々な困難にリーダーシップを発揮して取り組んでいる」(小野寺五典)「政界では一内閣一仕事といわれる。総理は在任中に重要な法案や大きな政策をひとつ達成すれば役目は十分という意味だが、安倍首相は国民投票法、教育基本法、防衛省昇格、平和安全法制、特定秘密法など大きな仕事をいくつも実現した。最強の総理の証拠」(平沢勝栄)「地球儀を俯瞰する外交を掲げ、のべ105の国と地域を訪問、各国首脳と個人的な信頼関係を醸成することで、国際社会における日本のプレゼンスを歴代最高レベルにまで高めた」(城内実)「安倍首相の経済政策は「所得倍増」で戦後の経済を復興させた池田勇人首相と共通する。池田氏には高度経済成長期という追い風があったが、安倍首相は少子高齢化の逆風下で経済を復活させた。最強の総理だからこそ」(中山泰秀)「総理として外交に重きを置き、積極的に多くの国を回った総理はいない。見た目もスマート、国会の写りもよく押し出しも良い。官房長官との息もぴったりで、素晴らしい指導者」(西銘順志郎)「アベノミクスや集团的自衛権など、具体的政策で日本再生を試みている」(東祥三)「プーチン対談などの安倍総理の外交成果は、小泉氏の北朝鮮訪問の実績を超える」(野末陳平)「特定秘密保護法、安保法、TPP、派遣法改悪、年金カット法、カジノ法、大企業の大減税、原発再稼働など、この国に生きる人々の生存権、知る権利を軒並み奪う立法を実現。やりたい放題、国家の私物化を行なった偉人」(山本太朗) 同意見—西銘恒三郎

## 4位 安倍晋三 (11票)



「環太平洋連帯や田園都市国家構想など現在の社会的課題解決の基本的な考え方をいち早く見通していた」(平将明)「日本の行く末を見通し、一般消費税など国民に不人気な政策も逃げずに語った。田中内閣で外務大臣として日中国交正常化に尽力し、今日の日中関係の礎を築いた。読書家の哲人だった」(玉木雄一郎)「信念を持った唯一の総理。中長期を見据えたプラン、ビジョンがあった。田園都市国家構想というビジョンをまとめた。最近には特にそうだが、多くの総理はシングルイシューだけで政治を行なうことが多い」(佐藤謙一郎)「大型間接税である消費税導入に貢献した」(津島雄二)

## 5位 大平正芳 (4票)



「所得倍増計画を実行達成した」(海江田万里)「所得倍増の池田、沖繩返還の佐藤、日本列島改造論の田中、日米同盟の強化の中曽根と、それぞれ評価できる」(久間章生)「所得倍増計画によって、経済の高度成長、国民の所得増を実現し、戦後の貧困から国民の暮らしを脱却させ、経済大国日本の礎を築いた」(筆坂秀世)

## 6位 池田勇人 (3票)

○岸信介「経済のエキスパートであるにもかかわらず、国会の重大課題が国防にあると見抜き、そこに政治生命を懸け、日米安保改正を実現した」(西村眞悟)「日米安保条約の不平等の是正に努め、政界引退後も自主憲法制定を目指して活動していたこと」(佐藤正久)○佐藤栄作「沖繩返還。安倍氏は各国との首脳会談が500回以上の平和貢献や、国会答弁での野党への反論等が評価できる」(西銘恒三郎) 同意見—久間章生 ○小泉純一郎「既得権益と真正面から戦ったから」(渡邊美樹)「信念を持って、どんなに逆風でもやりぬく。今もそう。原発について総理、議員を辞めた今でも、間違っていないことは間違っていない」(伊藤公介)

## 7位 岸信介 佐藤栄作 小泉純一郎 (2票)

## 10位 福田赳夫 竹下登 小淵恵三 鳩山由紀夫 野田佳彦 (1票)

○福田赳夫「独特なバランス感覚からの抜群の安定感」(鹿野道彦)○竹下登「消費税導入を大平正芳が言いだし、竹下が仕上げた」(津島雄二)○小淵恵三「派閥の意向を無視した組閣を戦後初めてやった総理だから」(野田聖子)○鳩山由紀夫「日本で不可能と思われていた政権交代を成し遂げた人。批判されているが、間違いなく教科書に載る。それだけの実績がある。歴史的な実績という観点で見れば、鳩山首相の成果は大きい」(島聡)○野田佳彦「外交・安全保障政策から社会保障政策まで幅広い知見を持ち、国民受けしない政策であっても、果敢に断行する、類稀な決断力をもっているから」(手塚仁雄)／ほか「該当なし」(村上正邦)「(1945年の)鈴木貫太郎」(武村正義)。複数回答あり、敬称略

代議士と支持する声もあったが、2人に留まった。

教育基本法、防衛庁の省庁格を実現させ、第2次政権以降も、平和安全法制、特定秘密法など内閣の命運を賭けるような大きな仕事をいくつも実現している。政権基盤が最強でなければできないことではありませぬ」(安倍政権下で自民党は、公明党や日本維新の会らと合わせると戦後初めて衆参で改憲支持派が3分の2の勢力を得た。政権基盤の強さでは、最強かもしれない。しかし、油断は禁物。現職時代の高評価が退陣後もそのまま続くとは限らない。「自民党をぶっ壊す」と郵政民営化を推進した小泉純一郎氏は、現職時代は高い支持率と長期政権を保った。「既得権益と真正面から戦った」(渡邊美樹・自民党参院議員)

「信念を持ってどんな逆風でもやりぬく。政界を引退した今も原発について『間違っている』といい続けている」(伊藤公介・元自民党代議士)

と支持する声もあったが、2人に留まった。

「「安倍さんと答えないと……」自民党の現職議員の中には、「歴代最高の総理は安倍さんと答えないとコロサれちゃうじゃないですか(笑)」と回答を断わる者もいたが、安倍首相は現職の票を中心に4位に入った。平沢勝栄・代議士が安倍氏を「最強」とあげた理由はこうだ。

「政界では一内閣一仕事といわれる。総理は在任中に重要な法案や大きな政策をひとつ達成すれば役目は十分果たしたことになる。それだけ重要な政策を実現するのは難しいという意味だが、安倍首相は第1次政権で憲法改正の国民投票法、

小泉退陣後、自民党では郵政民営化に反対して離党させられた造反組が次々に復党して小泉改革路線の揺り戻しが起きた。安倍政権下で自民党から小泉支持派が「消えた」ことが原因かもしれない。

他の自民党の総理経験者では、安倍首相が目標とする祖父の岸信介氏、大叔父で戦後最長の首相在任記録を持つ佐藤栄作氏、「所得倍増計画」で高度経済成長の立役者となった池田勇人氏らの名前があがった。

安倍首相は首相在任期間では中曽根氏を抜いて現在戦後4位だ。自民党の総裁任期が延長され、総裁選で3選すれば佐藤氏を抜いて戦後記録を塗り替える超長期政権も視野に入ってきた。

しかし、在任期間の長さは、総理としての評価には直結していないことがアンケートからもわかる。ケイト氏が歴史に名を残さうとするのであれば、どんな業績が長く歴史の評価に耐えるのかを知るべきではない。